

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670600026		
法人名	社会福祉法人 悠久会		
事業所名	グループホーム あいの郷		
所在地	三好市三野町太刀野6-14		
自己評価作成日	平成21年11月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3670600026&amp;SCD=320">http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3670600026&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成21年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「思いやりのある介護をチームで目指す、地域に密着しながら生き生きとした生活を支援する」を目標に毎日、利用者一人ひとりに合った介護を実践し、問題があればそのつど、検討を行っている。また認知症利用者に対し、職員一人ひとりが専門的知識を持って、利用者へ寄り添い、安心感のあるケアを行えるよう心がけている。また地域との関わりを密にし、行事やイベントなどに参加することで、生き生きとした生活が送れるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員一人ひとりが専門的知識を持ち、利用者へ寄り添った安心感のあるケアを心がけている。思いやりと信頼感のある介護がチームで行われている。地域との関わりは密に行われている。お祭りや名所旧跡への見学、産直市への出展、農園での苗植えから収穫までの一連の作業などが、利用者との協働で行われている。「地域に密着しながら生き生きとした生活を支援する」との理念に基づいたケアサービスは、利用者本位の支援につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、理念を常に念頭におきケアを提供している。地域密着型サービスの意義を理解し、実践していく努力を行っている。	管理者と職員は地域密着型サービスの意義を理解し、実践につなげている。常に理念を念頭におき、具体的なケアについて意見の統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	運動会・祭り・地域の行事などには、積極的に参加している。利用者や職員は地元出身者が多いため、地域情報の入手が早く、馴染みのある関係づくりができています。	運動会やお祭り、地域の行事などへ積極的に参加している。近隣への外出の機会も多く出合った人たちと挨拶を交わしたり、会話をしたりしている。地域の情報も早く入手でき、馴染みの関係づくりができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや実習など外部の方が来所した際には、事業所案内をしたり実情を伝えたりしている。外出の機会には出会った方に利用者と実際に対話していただき、ふれ合いの場をつくっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、民生委員や地域包括支援センター職員、家族の方などに出席していただいている。ホームの現状を報告して率直な意見を聞き、改善する努力をしている。	運営推進会議では事業所の現状や取り組み状況等を報告している。参加メンバーから質問や意見、要望などの素直な意見を受けそこでの話し合いをサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	他事業所の管理者や広域連合等と連携をとり、第三者の目でみた意見を拝聴している。機会あるごとに積極的な関わりを持ち、グループホームへの理解が得られるよう取り組んでいる。	他の事業所や広域連合の担当者と密に連携を取り、事業所の考え方や取り組みを伝えている。情報の交換をしながらケアサービスの向上と協力関係づくりに取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束承諾書がある。入居時に家族へ説明し、納得してもらったうえでサインをいただいている。やむを得ず拘束する場合は、記録表に記入して署名している。	入居時に家族等へ説明をしている。状況変化等により予測されるリスクを家族等と素直に話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中、玄関に鍵はかけられていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	関連著書や新聞記事などを各々職員が持ち寄っている。疑問点や改善策をホームの現状に照らし合わせて考え議論し、虐待防止の意識をもつようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修計画をたてている。管理者は職員に対し、各々の力量にあった研修に参加するよう促している。また、研修内容を研修報告書と口頭で報告している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書と重要事項説明書を、事例をふまえて説明している。またそのつど質疑応答して理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは何でも言い合える関係をつくるように努めている。家族に対しては気づいた点があれば、管理者や職員に相談してもらえるようお話している。	毎月、利用者の健康状態や日々の暮らしぶりを記載した「あいの郷便り」を送付している。利用者とは何でも言い合える関係づくりに努めている。家族等に対しては、いつでも気づいた点を話してもらえよう伝えている。出された意見は運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや会議の際には、理事長や管理者を含めて意見を交換している。隔月の運営推進会議では問題点を議題にあげ、改善策を検討している。	代表者や管理者は、カンファレンスや会議の際に運営に関する職員の意見や提案を聞き、意見の交換をしながら改善策を話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に則り、適切に運営されている。代表者は、職員と個々に対話する場を設けて相談に応じ、できるだけ良好な職場環境をつくる努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各々の立場に関連する資格取得を目標にあげ、常に向上心をもつよう指導している。また研修計画を作成し、職員の経験や力量にあった研修に参加するよう声かけしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の関連施設と連携し、常に新しい情報を取り入れることができる環境づくりをしている。交換研修生や病院からの実習生の体験学習を積極的に受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者をつけている。入居前に面談し、不安点・心配な点をお聞きしケアプランをたてている。家族から要望を聞き、できることとできないことを説明し、できるだけ希望にそえるようなケアをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	可能なときは、入居前に本人と家族に事業所内を見学していただいている。わからないことや不安なことがあれば、何でも相談していただけるような雰囲気づくりを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話を真摯な態度で聞き、できる支援案を説明している。必要なときは、関連施設の他のサービス利用の案内もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に利用者に敬意を表し「利用者職員」といった関係ではなく共に生活する者同士としての信頼を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	希望があったときは、外泊・外出支援をしている。本人・家族双方の意見をお聞きし、多方面からの視点で検討し、より良い関係性を継続できるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩やドライブは、馴染みのある場所を選んでいる。希望があれば、墓参りや自宅の畑の手入れにも送迎している。またホームの電話は、職員介助のもと自由に使用できる。	散歩やドライブ等は、馴染みのある場所を選んでいく。神社へのお参り、農園での芋苗植えから芋掘り、産直市への出展、自宅の畑の手入れ等利用者一人ひとりの生活習慣を大切にしながら、人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室にこもりがち利用者には声かけし、レクリエーションや体操に参加いただいている。体調不良日や気分の乗らない日はあえて声かけしていない。トラブル時には職員が双方の話を聞き、仲裁している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほぼすべてが協力病院への入院退居である。入院した利用者には、職員が会議や受診付き添い等の機会に、病室にお見舞いに伺っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から思いを把握できるように努めている。そのうえで、不安・不満な点があれば、相談してもらえるような関係になるよう努力している。	日々の会話の中から、思いや意向の把握に努めている。意思疎通の困難な場合には、家族や関係者等から情報を得るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を記入する用紙がある。入居時の聞き取りで本人・家族から聞ける範囲でお聞きし、エピソードも交えて記入している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定をしている。訪問診療時には医師と看護師が来所して診察・相談に応じている。ケア方法に変更があれば、口頭や日誌を通じて申し送りをし、全職員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回、担当者によるカンファレンス会議を開いてケアプランの見直しをしている。プランを立てる際は、本人・家族に要望をお聞きしている。最後に家族の署名をいただき、保存している。	介護計画は、アセスメントとモニタリングを繰り返し、設定期間に応じた見直しに加えて本人や家族の要望や変化があった時など臨機応変に見直している。作成できた介護計画は、家族の署名をもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個人カルテへの記録をしている。特に緊急・重要な申し送り事項は日誌に記入している。職員は出勤時に必ず目を通しサインをしてから業務に就くように指導している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の意思を尊重している。家族やケアマネジャーと連携を密にとり、必要があれば他のサービス利用も含めた支援を提案している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員やボランティア、警察、消防等、協力していただける機関が多くある。グループホームの意義を理解し、支援していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院からの訪問診療がある。訪問看護も受けている。かかりつけ医を持っている利用者には、家族または職員が付き添って受診している。	協力病院からの訪問診療がある。かかりつけ医への受診や希望する病院への受診時には、必要に応じて家族や職員が付き添い、日ごろの様子や変化を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置している。必要時には職員が看護師に連絡・相談し、指示をもらっている。訪問診療や訪問看護も受け、利用者の日々の体調変化を見逃さないようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と連携がとれており、緊急時にはすぐに入院できる受け入れ態勢を整えている。入院中もケアマネジャーや病院関係者、家族と連絡し合い、早期に退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際にターミナル時における説明をし、納得してもらったうえで入居していただいている。必要な時には医師から家族に状態を説明し、以後の対応について関係者で話し合い決定している。	契約の際に重度化した場合や終末期のあり方を話し合い、納得してもらってから入居してもらっている。状況の変化に応じて、本人や家族の意向を踏まえて医師や職員、関係者が連携をとり、随時の意思確認をしながら方針を共有し、チームで取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を配置している。全職員は、AEDの操作や応急手当が行える。AED研修は順次、全職員に参加の声かけをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震訓練と火災訓練を実施している。ホームでの緊急連絡網を作成し、病院関係者や地域自主防災会と連携して対応できる体制をとっている。協力病院の訓練には連絡役として参加している。	マニュアルを作成し、地震訓練と火災訓練を定期的実施している。地域の協力体制については、地域自主防災会への加入や運営推進会議での協力の呼びかけ、協力病院との連携等で支援体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は聞き取りを通して好む話・苦手な話、趣味等を把握している。常に言葉遣いには注意して、穏やかな態度で聞く姿勢をとっている。	職員は利用者との会話の中から好む話や苦手な話、趣味等を把握している。言葉かけや声のトーンに気をつけながら、穏やかな対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションや体操・外出・ドライブに声かけしている。その時の利用者の体調や気分にあわせて、個々の今したいことを尊重するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	物ごとを決定する際には、わかりやすい言葉を使って質問したり問いかけを繰り返したりして意志を聞いている。要介護度が重度の利用者にはいくつかの案を提示し、選択していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時には、クローゼットから衣服を自分で選んでいただいている。入浴後には、希望に応じて化粧水や乳液をつけてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近隣の住民から旬の食材をいただく機会が多い。利用者の力に応じて、職員と一緒に調理を手伝ってもらっている。月一回の料理教室を開き、利用者同士は協力して作業している。	近隣の住民から旬の食材をいただくことが多く、住民と利用者が触れ合う機会となっている。利用者一人ひとりの力を活かしながら、職員と一緒に食事の準備などを行っている。月一回開かれる料理教室は、利用者に変大好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の指示に基づいた調理方法を取り、とろみ付け・キザミ食・ミキサー食などを区別して提供している。水分量が少ない利用者には水分チェック表を用いて管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯洗浄・うがいの誘導をしている。援助の必要な利用者には、職員が介助して清潔を保つようにしている。月一回の歯科衛生士による口腔ケアをうけ、利用者と職員は指導していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して個々の排泄パターンを把握し、できるだけおむつを使用しないようなケアを心掛けている。	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や自立に向けたケアを心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を十分にしたり、レクリエーションや体操・散歩などで体を動かしたりして、自然な排泄ができるよう援助している。必要に応じ医師の診察のもと、下剤等を処方していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	失禁時や受診前・外出前・外泊前など、本人の希望や状況によりいつでも入浴できる用意がある。	本人の希望や状況により、いつでも入浴できる体制がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で自由に休んでいただいている。夜間は夜勤者が冷暖房・湿度を調整し、入眠しやすい環境づくりをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を配置している。調剤薬局の服薬指導や訪問看護などの連携がある。薬の変更・増加時は日誌に記入し、全職員が目を通している。誤薬等の事故が発生しないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事・料理の補助など、個々の身体レベルに合わせた作業をしていただいている。併設事業所のレクリエーションやホームでのイベントにも積極的に声かけし、参加を促している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺の散歩やドライブなど、戸外に出かける機会を多くもてるように支援している。図書館利用や買い物希望がある利用者には、職員送迎でいつでも出かけられる環境にある。	ホーム周辺の散歩やドライブなど、戸外に出かける機会を多く持っている。希望により図書館の利用や買い物、お墓参りなど行きたい場所への外出を支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金がある。ある程度自由に使用していただけるよう、制限のない利用者は化粧品やお菓子を買うこともできる。また本人・家族の承認をいただいたうえで現金を自己管理で所持している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は職員介助のもと、誰でも自由に使用できる。携帯電話を持参している方が数名いる。また不要はがきを使用し、暑中見舞いや年賀状を書いて大切な人とのつながりをもっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや居室は自由に行き来できる。玄関や洗面台には季節の切花を飾っている。リビングの掲示板には貼り絵やぬり絵など利用者の作品を展示している。	玄関入り口には手作りの十二支の置物がある。衣替えをした昨年、行事に出品して優勝した「かかし」が椅子に腰掛け出迎えている。共用の場所では利用者がそれぞれの洗濯物をたたみ、個別の選り分けが見守られている。生活感や季節感のある居心地のよい環境づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は自由に行き来できるため、仲の良い利用者が集まって談話している。玄関前にはベンチを、廊下には椅子を並べて、職員の間を離れて利用者同士が自由に過ごせる空間づくりができています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に説明し、馴染みのある家具や使い慣れた用具を持参していただいている。温度計や湿度計を用い、必要なら空気清浄機・加湿器・エアコンなどを使用し、心地よく過ごせる環境づくりをしている。	入居時に、馴染みのある家具や使い慣れた用具の持参を説明している。物の置き場所は、一人ひとりの理解力に応じた配置になるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱を避けるため、個人情報保護法を説明して承認を得たうえで、各居室入り口に表札をつけている。トイレには張り紙を、リビングには名札を貼っている。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			北ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、理念を常に念頭におきケアを提供している。地域密着型サービスの意義を理解し、実践していく努力を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運動会・祭り・地域の行事などには、積極的に参加している。利用者や職員は地元出身者が多いため、地域情報の入手が早く、馴染みのある関係づくりができています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや実習など外部の方が来所した際には、事業所案内をしたり実情を伝えたりしている。外出の機会には出会った方に利用者と実際に対話していただき、ふれ合いの場をつくっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、民生委員や地域包括支援センター職員、家族の方などに出席していただいている。ホームの現状を報告して率直な意見を聞き、改善する努力をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	他事業所の管理者や広域連合等と連携をとり、第三者の目でみた意見を拝聴している。機会あるごとに積極的な関わりを持ち、グループホームへの理解が得られるよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束承諾書がある。入居時に家族へ説明し、納得してもらったうえでサインをいただいている。やむを得ず拘束する場合は、記録表に記入して署名している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関連著書や新聞記事などを各々職員が持ち寄っている。疑問点や改善策をホームの現状に照らし合わせて考え議論し、虐待防止の意識をもつようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			北ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修計画をたてている。管理者は職員に対し、各々の力量にあった研修に参加するよう促している。また、研修内容を研修報告書と口頭で報告している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書と重要事項説明書を、事例をふまえて説明している。またそのつど質疑応答して理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは何でも言い合える関係をつくるように努めている。家族に対しては気づいた点があれば、管理者や職員に相談してもらえるようお話ししている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや会議の際には、理事長や管理者を含めて意見を交換している。隔月の運営推進会議では問題点を議題にあげ、改善策を検討している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に則り、適切に運営されている。代表者は、職員と個々に対話する場を設けて相談に応じ、できるだけ良好な職場環境をつくる努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各々の立場に関連する資格取得を目標にあげ、常に向上心をもつよう指導している。また研修計画を作成し、職員の経験や力量にあった研修に参加するよう声かけしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の関連施設と連携し、常に新しい情報を取り入れることができる環境づくりをしている。交換研修生や病院からの実習生の体験学習を積極的に受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	北ユニット	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>								
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者をつけている。入居前に面談し、不安点・心配な点をお聞きしケアプランをたてている。家族から要望を聞き、できることとできないことを説明し、できるだけ希望にそえるようなケアをしている。					
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	可能なときは、入居前に本人と家族に事業所内を見学していただいている。わからないことや不安なことがあれば、何でも相談していただけるような雰囲気づくりを心がけている。					
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話を真摯な態度で聞き、できる支援案を説明している。必要なときは、関連施設の他のサービス利用の案内もしている。					
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に利用者に敬意を表し「利用者」と「職員」といった関係ではなく共に生活する者同士としての信頼を築くよう努めている。					
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	希望があったときは、外泊・外出支援をしている。本人・家族双方の意見をお聞きし、多方面からの視点で検討し、より良い関係性を継続できるよう支援している。					
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩やドライブは、馴染みのある場所を選んでいく。希望があれば、墓参りや自宅の畑の手入れにも送迎している。またホームの電話は、職員介助のもと自由に使用できる。					
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室にこもりがちな利用者には声かけし、レクリエーションや体操に参加いただいている。体調不良日や気分の乗らない日はあえて声かけしていない。トラブル時には職員が双方の話をお聞きし、仲裁している。					

自己	外部	項目	自己評価	北ユニット	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほぼすべてが協力病院への入院退居である。入院した利用者には、職員が会議や受診付き添い等の機会に、病室にお見舞いに伺っている。					
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>								
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から思いを把握できるように努めている。そのうえで、不安・不満な点があれば、相談してもらえるような関係になるよう努力している。					
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を記入する用紙がある。入居時の聞き取りで本人・家族から聞ける範囲でお聞きし、エピソードも交えて記入している。					
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定をしている。訪問診療時には医師と看護師が来所して診察・相談に応じている。ケア方法に変更があれば、口頭や日誌を通じて申し送りをし、全職員が把握できるようにしている。					
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回、担当者によるカンファレンス会議を開いてケアプランの見直しをしている。プランを立てる際は、本人・家族に要望をお聞きしている。最後に家族の署名をいただき、保存している。					
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個人カルテへの記録をしている。特に緊急・重要な申し送り事項は日誌に記入している。職員は出勤時に必ず目を通しサインをしてから業務に就くように指導している。					
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の意思を尊重している。家族やケアマネジャーと連携を密にとり、必要があれば他のサービス利用も含めた支援を提案している。					

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			北ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員やボランティア、警察、消防等、協力していただける機関が多くある。グループホームの意義を理解し、支援していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院からの訪問診療がある。訪問看護も受けている。かかりつけ医を持っている利用者には、家族または職員が付き添って受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置している。必要時には職員が看護師に連絡・相談し、指示をもらっている。訪問診療や訪問看護も受け、利用者の日々の体調変化を見逃さないようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と連携がとれており、緊急時にはすぐに入院できる受け入れ態勢を整えている。入院中もケアマネジャーや病院関係者、家族と連絡し合い、早期に退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際にターミナル時における説明をし、納得してもらったうえで入居していただいている。必要な時には医師から家族に状態を説明し、以後の対応について関係者で話し合い決定している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を配置している。全職員は、AEDの操作や応急手当が行える。AED研修は順次、全職員に参加の声かけをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震訓練と火災訓練を実施している。ホームでの緊急連絡網を作成し、病院関係者や地域自主防災会と連携して対応できる体制をとっている。協力病院の訓練には連絡役として参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			北ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は聞き取りを通して好む話・苦手な話、趣味等を把握している。常に言葉遣いには注意して、穏やかな態度で聞く姿勢をとっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションや体操・外出・ドライブに声かけしている。その時の利用者の体調や気分にあわせて、個々の今したいことを尊重するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	物ごとを決定する際には、わかりやすい言葉を使って質問したり問いかけを繰り返したりして意志を聞いている。要介護度が重度の利用者にはいくつかの案を提示し、選択していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時には、クローゼットから衣服を自分で選んでいただいている。入浴後には、希望に応じて化粧水や乳液をつけてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近隣の住民から旬の食材をいただく機会が多い。利用者の力に応じて、職員と一緒に調理を手伝ってもらっている。月一回の料理教室を開き、利用者同士は協力して作業している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の指示に基づいた調理方法を取り、とろみ付け・キザミ食・ミキサー食などを区別して提供している。水分量が少ない利用者には水分チェック表を用いて管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯洗浄・うがいの誘導をしている。援助の必要な利用者には、職員が介助して清潔を保つようにしている。月一回の歯科衛生士による口腔ケアをうけ、利用者と職員は指導していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			北ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して個々の排泄パターンを把握し、できるだけおむつを使用しないようなケアを心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を十分にしたり、レクリエーションや体操・散歩などで体を動かしたりして、自然な排泄ができるよう援助している。必要に応じ医師の診察のもと、下剤等を処方していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	失禁時や受診前・外出前・外泊前など、本人の希望や状況によりいつでも入浴できる用意がある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で自由に休んでいただいている。夜間は夜勤者が冷暖房・湿度を調整し、入眠しやすい環境づくりをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を配置している。調剤薬局の服薬指導や訪問看護などの連携がある。薬の変更・増加時は日誌に記入し、全職員が目を通している。誤薬等の事故が発生しないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事・料理の補助など、個々の身体レベルに合わせた作業をしていただいている。併設事業所のレクリエーションやホームでのイベントにも積極的に声かけし、参加を促している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺の散歩やドライブなど、戸外に出かける機会を多くもてるように支援している。図書館利用や買い物の希望がある利用者には、職員送迎でいつでも出かけられる環境にある。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			北ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金がある。ある程度自由に使用していただけるよう、制限のない利用者は化粧品やお菓子を買うこともできる。また本人・家族の承認をいただいたうえで現金を自己管理で所持している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は職員介助のもと、誰でも自由に使用できる。携帯電話を持参している方が数名いる。また不要はがきを使用し、暑中見舞いや年賀状を書いて大切な人とのつながりをもっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや居室は自由に行き来できる。玄関や洗面台には季節の切花を飾っている。リビングの掲示板には貼り絵やぬり絵など利用者の作品を展示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は自由に行き来できるため、仲の良い利用者が集まって談話している。玄関前にはベンチを、廊下には椅子を並べて、職員の間を離れて利用者同士が自由に過ごせる空間づくりができています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に説明し、馴染みのある家具や使い慣れた用具を持参していただいている。温度計や湿度計を用い、必要なら空気清浄機・加湿器・エアコンなどを使用し、心地よく過ごせる環境づくりをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱を避けるため、個人情報保護法を説明して承認を得たうえで、各居室入り口に表札をつけている。トイレには張り紙を、リビングには名札を貼っている。		